

# 平成27年度 全国学力・学習状況調査

## 調査結果

- 1 調査の概要 1 P
- 2 教科に関する調査結果と今後の取組 2 P～4 P
- 3 質問紙調査に関する調査結果 5 P～6 P
- 4 羽幌町の今後の取組 7 P

平成28年1月

羽幌町教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象

- ① 小学校調査 小学校6学年
- ② 中学校調査 中学校3学年

### (3) 調査の内容

#### ① 児童生徒に対する調査

- ・教科に対する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A、理科）

主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B、理科）

- ・質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

#### ② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### (4) 調査期日

平成27年4月21日（火）

### (5) 調査を実施した学校

羽幌小学校

天売小学校

天売中学校

羽幌中学校

## 2 教科に関する調査結果と今後の取組

### (1) 教科に関する小学校調査の結果(国語、算数、理科)

#### ① 国語A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題(14問)

■国語A全体の平均正答率は、全道・全国を下回っているが、「書くこと」の問題は全道・全国を上回っている。「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題で、全道・全国を下回っている。

※ 前年度の国語A全体は、全道・全国を上回っている。

#### ② 国語B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題(9問)

■国語B全体の平均正答率は全道・全国を上回っており、「書くこと」、「読むこと」のすべての問題で、全道・全国を上回っている。

※ 前年度の国語B全体は、全道・全国を下回っている。

#### ③ 算数A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題(16問)

■算数A全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の問題で、全道・全国を下回っている。

※ 前年度の算数A全体は、全国を下回っているが、全道を上回っている。

#### ④ 算数B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題(13問)

■算数B全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の問題で、全道・全国を下回っている。

※ 前年度の算数B全体は、全国を下回っているが、全道を上回っている。

#### ⑤ 理科

主として「知識」に関する問題(9問)。主として「活用」に関する問題(15問)

■理科全体の平均正答率は、全道・全国を下回っているが、「地球」の問題では、全道を上回っている。「物質」、「エネルギー」、「生命」の問題では、全道・全国を下回っている。

## ⑥ 今後の取組

### <国語の取組>

「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が低い傾向にあり、授業の中で目的に応じて、適切に引用することを意識させたり、それぞれの文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気をつけさせることなどの充実が必要である。

### <算数の取組>

「図形」、「量の測定」の正答率が低い傾向にあり、日常生活の事象の中に図形を見出したり、見当をつけたり、結果を振り返って確かめる活動などを取り入れた授業を工夫する必要がある。

### <理科の取組>

顕微鏡の適切な操作方法や実験や観察の結果の分析などの正答率が低い傾向にあり、授業の中で観察器具の操作方法を意識させたり、予想、方法、結果の見通し、結果などが明確になる板書やワークシートなどの工夫が必要である。

## (2) 教科に関する中学校調査の結果（国語、数学、理科）

### ① 国語A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題（33問）

■国語A全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「話すこと、聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題で全道・全国を下回っている。

※ 前年度の国語A全体は、全道・全国を下回っている。

### ② 国語B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題（9問）

■国語B全体の平均正答率は全道・全国を上回っており、「書くこと」、「読むこと」の問題で全道・全国を上回っている。

※ 前年度の国語B全体は、全道・全国を下回っている。

### ③ 数学A

基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題（36問）

■数学A全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「図形」の問題では全国より下回ってはいるが、全道と同程度。「資料の活用」の問題では全道を上回り、全国と同程度。「数と式」、「関数」の問題で全道・全国を下回っている。

※ 前年度の数学Aも、全道・全国を下回ったが、その差は減少している。

### ④ 数学B

基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題（15問）

■数学B全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「数と式」の問題では、全国より下回っているが、全道を上回っている。「資料の活用」の問題でも、全国より下回っているが、全道を上回っている。「関数」の問題では全道を上回り、全国と同程度。「図形」の問題は全道・全国を下回っている。

※ 前年度の数学B全体も、全道・全国を下回ったが、その差は減少している。

### ⑤ 理科

主に「知識」に関する問題（7問）。主に「活用」に関する問題（18問）

■理科全体の平均正答率は全道・全国を下回っており、「地学的領域」の問題では、全国を上回り全道と同程度。「物理的領域」、「化学的領域」、「生物的領域」の問題で全道・全国を下回っている。

### ⑥ 今後の取組

#### <国語の取組>

「話すこと・聞くこと」の正答率が低い傾向にあり、相手や目的、状況に応じて分かりやすく話す力を身につけるため、学年段階に応じた指導を工夫し、これまで学習してきたことを振り返りながら学習するよう指導する必要がある。

#### <数学の取組>

「数と式」、「図形」の正答率が低い傾向にあり、問題解決に向け見通しを持った取り組みで、基礎基本の定着と応用発展問題への取り組みを充実する必要がある。

#### <理科の取組>

「分析して解釈すること」、「検討して改善すること」の正答率が低い傾向にあり、生徒自身が考えを検討して改善するきっかけとなるように、生徒の思考を促す助言や問い返しなどを工夫した授業の改善が必要である。

### 3 質問紙調査に関する調査結果

#### (1) 児童・生徒に関する質問紙調査の結果

学習に対する関心・意欲・態度（国語、算数・数学、理科、総合的な学習の時間への関心等）、自尊感情・規範意識、学習の基礎となる活動・習慣（言語活動・読解力、生活習慣、学習習慣、学習状況）に関する事項を主に、小学校・中学校とも87項目について、児童・生徒に質問を行った結果、全道・全国と比較して、概ね次の傾向がみられる。

##### <小学校>

- 一日の生活の中で、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている時間の割合が高く、学校の授業時間以外に、一日当たり勉強する時間が少ないが、家で計画を立てての勉強や宿題・復習をしている割合は昨年度より高い。
- 毎日新聞を読む割合が低い、地域の行事への参加や地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるという割合は昨年度より高い。
- 5年生までに受けた授業で扱うノートに学習の目標とまとめを書いていた割合が低く、「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しい」の割合は高い。
- 算数への関心は高いが、「算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」の割合が低い。
- 理科への関心は高いが、「将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思う」の割合が低く、理科の授業で、「自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりする」の割合も低い。
- 「自分にはよいところがあると思う」、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の割合が昨年度より高くなっている。

##### <中学校>

- 一日の生活の中で、テレビゲーム、メールやインターネットに時間を使う割合が高く、学校の授業時間以外に、一日当たり勉強する時間や読書をする時間は少ないが、家で自分なりの計画を立てての勉強や宿題・予習をしている割合は昨年度より高い。
- 数学への関心が低く、「数学の授業で学習したことを普段の生活の中に活用できないか考える」や「将来、社会に出たときに役立つ」の割合が低い。
- 理科への関心が低く、「授業の内容がよくわかる」の割合が低く、「将来、社会に出たときに役立つ」の割合が低い。
- 「学校の規則を守っている」、「学校へ行くのは楽しい」、「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している」、「学級みんなで協力し、何かをやり遂げ、うれしかったことがある」などの割合は昨年度より高い。

## (2) 学校に関する質問紙調査の結果

教科指導（個に応じた指導、国語科の指導法、算数科・数学科の指導法、理科の指導法）、学力向上（児童・生徒の状況、学力向上に向けた取組・指導法、家庭学習）、学校経営（地域の人材・施設の活用、教員研修・教職員の取組）に関する事項を主に、小学校では 112 の項目、中学校では 110 の項目について、学校に質問を行った結果、全道・全国と比較して、概ね次の傾向がみられる。

### <小学校>

- 熱意をもって勉強し、授業中の私語が少なく、落ち着いていて、自分の考えを相手にしっかり伝え、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを深めたり広げたりすることができるなど、児童の状況に関する割合が昨年度と同様に高い。
- 発言や活動の時間を確保したり、グループで話し合う活動を行ったり、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くようにしたり、資料を使っただけの発表ができるようになる指導をしている割合が高いが、授業の冒頭で目標（ねらい、めあて）を示したり、ノートに目標を書くよう指導した割合が少し低い。
- 国語の指導として、様々な文章を読む習慣をつける授業を行ったり、算数の指導として、補充的な学習の指導を行うなど、昨年度と同様に国語科・算数科の指導法に関する割合が高い。
- 「PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加し、効果が上がっている」、「教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校との連携している」、「学習指導と学習評価の計画に当たっては、職員同士が協力し合っている」などの割合が高い。

### <中学校>

- 国語、数学、理科の総授業時数が全道、全国より多い傾向にある。
- 授業中の私語が少なく、礼儀正しく、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかり伝えることができている、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるなど、生徒の状況に関する項目の割合が低い。
- 学校生活の中で、生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど、積極的に評価した、学習規律（私語をしない、話している人の方を向いて話を聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底したなどの項目の割合が昨年度と同様に高い。
- 国語・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた割合は低いが、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけをした割合は高く、校内の教職員で、家庭学習の課題の与え方について共通理解を図ったり、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法等の具体例を挙げ教えたなどの項目の割合が高い。
- 国語・数学の指導として、発展的な学習を行った割合が低い。

#### 4 羽幌町の今後の取組

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を前年度と比較すると、小学校、中学校両調査とも国語Bの平均正答率が全道・全国を上回るなど、全道・全国の平均正答率との差が減少傾向にある教科があり、各学校の取組の成果が表れた状況となっている。

これは、学力向上に関する取組の中で、朝学習、放課後学習、朝読書、全校読書などの実施、学習規律の徹底、授業の終末の工夫などの実践により、正答率の向上につながったものと思われる。また、児童・生徒に関する質問紙調査、学校質問紙調査から、学校の授業以外での勉強時間が少ない傾向にあるが、「家庭学習のすすめ・手引き」の配布や生活リズムチェックシート、「デイリーライフ」などの活用による生活習慣の改善など、保護者への働きかけの成果がみられている。さらに向上を目指し、小中の連携や家庭・地域との連携の充実が必要となる。

##### <具体的取組内容>

###### □学力向上の取組

- ◆朝学習、放課後学習、朝読書、全校読書
- ◆T Tを活用した個別指導及び習熟度指導の充実
- ◆各種テストの繰り返しによる基礎基本の定着
- ◆基礎学力定着を目的とした課題（プリント等）配布
- ◆授業の終末に練習問題の時間を確保し、学習内容の確認を実施
- ◆学習規律の定着を図る
- ◆校内研究の活性化と授業改善
- ◆外部人材を利用した長期休業中の学習会の実施
- ◆絵本の読み聞かせボランティアによる読書活動の充実
- ◆学習規律などの小中学校の連携

###### □家庭・学校が連携した家庭学習の定着を図る取組

- ◆学校日より、PTA集会時における家庭学習定着の周知
- ◆「家庭学習のすすめ・手引き」などのプリント配布
- ◆「生活リズムチェックシート」、「デイリーライフ」などによる実態把握と改善
- ◆家読の推進及びテレビ視聴等の時間削減の呼び掛け
- ◆「携帯電話教室」、「ネット電話教室」の開催
- ◆学年×10分+10分の家庭学習の推進（小学校）
- ◆1学年80分以上、2学年90分以上、3学年100分以上の家庭学習の推進

(中学校)

###### □学校・地域・家庭と連携した取組

- ◆特色を生かした総合学習の実施
- ◆体力・心力の向上のための各種スポーツ、自然体験事業の実施及び参加
- ◆外部機関と連携した環境教育の推進